

# 留学生たちの 「わいわい子ども食堂 訪問記」

(バラック・テグゲンさんの和訳より抜粋)

ラオス出身のダーさん  
「こども食堂は食事の場であるだけでなく、人々がつながり支え合う場所でもある」と述べています。

タイ出身のチャットさん  
「健康とは、身体的な健康を改善するための医療サービスだけではなく、心を込めて支援すること、そして栄養、清潔な水、住居、衣服といった基本的なものへのアクセスを確保することなのだ気づきました」と書いています。

カンボジア出身  
ブンロンさん  
この経験を通して、「こども食堂は単に食事をする場所以上の存在であり、社会的なつながり、相互支援、そして地域への強い帰属感を育む空間である」とことが分かったと述べています。



カンボジア出身のタッチさんは、「こども食堂は夕食を提供するだけでなく、温かさ、思いやり、そして地域への帰属感を通してコミュニティを一つにする」と感じたと述べています。

フィリピン出身のメイさん  
「盛り付けするお皿の数やその作業がとても体系的であることに驚きました」と述べ  
バグラデシュ出身のファティーマさん  
この活動のより深い目的について、「単に食事を提供することではなく、寄り添いあい、関心を向け、そして地域への所属感を育むことだった」と表現していました。

学生たちの振り返りでは、全員がこども食堂でのボランティア活動は一貫して、温かく、親しみやすく、運営がよく整えられており、そして深く意義のあるものと述べていました。

学生が共通して注目した点は、こども食堂の世代を問わず誰もが参加できる点でした。子ども、保護者、高齢の地域住民が同じ空間で自然に食事を共にし、会話を交わしている様子に学生たちは驚いていました。ボランティアの多くが、食事をしに来た人を個人的に知っているように見え、子どもたちが大人と冗談を言い合いながら気負わず交流している姿から、人と人との信頼関係、コミュニティのレジリエンス(回復力)が育てられていることが感じられました。学生らが述べているように、多くのボランティアが協働して継続的に行う小さな営みの積み重ねが、地域社会への永続的なインパクトを生み出し得るのかもしれない。(バラック・テグゲン)

## 食堂開催日程

- 「上飯田」  
めいほくわいわい食堂  
みなみまち  
福祉センター一階  
4月8日(水)  
17時30分～19時
- 「あじま」  
あじまわいわい食堂  
楠地区会館二階  
4月11日(土)  
11時30分～13時
- 「上飯田」  
フードステーション  
北医療生協  
すまいるハートビル一階  
4月12日(日)  
10時～11時